

第9回長野支部学術集会

学術集会会長：鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
センター長 前田道宣

2010年5月22日(土)、長野県松本市の長野県松本文化会館を会場に、地域医療連携におけるリハビリテーション医療の役割をテーマとして、第9回日本医療マネジメント学会長野支部学術集会を開催致しました。

過去8回の学術集会は急性期病院が主幹病院を勤めておりましたが、初めて療養病床中心の病院が主幹病院となり、約480名にご参加頂き、大変有意義な学術集会となりました。

招聘講演として東京大学高齢社会総合研究機構教授：辻 哲夫先生に「超高齢社会に向けての医療政策の展望」を、医療法人社団輝生会初台リハビリテーション病院理事長：石川 誠先生に「地域医療連携におけるリハ医療の役割－医療・介護の制度改革を見据えて－」、エーザイ株式会社協賛によるランチョンセミナーは国立大学法人浜松医科大学医学部看護学地域看護学講座教授：鈴木みずえ先生による「認知症とともに生きる人のための転倒予防対策」のご講演を賜りました。すべてタイムリーで非常に興味深い内容であり、演者の先生方には深謝致します。

一般演題もポスター展示を含め16題と各セッションとも充実した内容で、病院・診療所問わず看護師・コメディカル・事務職員など様々な職種の取組みについて報告がなされておりました。

最後に、本会が成功裏に終了することが出来たことは、長野県下での地域医療連携、他職種連携に対する関心の高さの表われであり、ひとえに関係者の皆様方のご支援によるものと心より感謝申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

第9回青森支部学術集会

当番世話人：弘前大学医学部附属病院院長 花田勝美



会場風景

第9回日本医療マネジメント学会青森支部学術集会が2010年6月5日(土)、青森市の青森グランドホテルで開催されました(世話人 弘前大学医学部附属病院院長

花田勝美)。青森県内の多くの医療機関から多職種の医療関係者が多数参加され、参加人数は会場いっぱいの300余名に達しました。プログラムは一般演題(口演)21

題、教育講演1題、特別講演1題で、日本医師会生涯教育制度に係る認定講座にも認定されております。一般演題では「医療安全」、「医療の質」、「クリティカルパス」、「地域医療連携」、「病院運営」に関連した取り組みや課題について熱心な研究発表があり、職種を超えて活発な討論が行われました。教育講演は、金沢大学附属病院医療安全管理部准教授 古川裕之先生に「アナタの常識はワタシの常識ではない－情報伝達エラーを防止する－」という演題でご講演をいただきました。医薬品関連事故の背景にある情報伝達エラーの重大性と防止法について、実際の事例をもとにわかりやすく講演され、多くの参加者が大変興味深く聴き入りました。特別講演は東京大学大学院人文社会系研究科次世代人文学開発センター 上廣死生学講座教授 清水哲郎先生が「臨床倫理とリスクマネジメント」というテーマでご講演されました。医療現場における臨床倫理の考え方・営みとリスクマネジメントとの関係、「社会の仕組みになった」医療における倫理原則についてのお話は、多くの参加者に日頃意識することなく関わっている医療の本質について改めて考える機会を与えてくれました。

多数のご参加をいただき無事盛会に終了することができ、ご協力いただきました関係各位およびご後援をいただきました青森県内の関係各種団体にお礼を申し上げます。

(文責：弘前大学医学部附属病院医療安全推進室 福井康三)

第2回福島支部学術集会

学術集会会長：(独)労働者健康福祉機構福島労災病院
副院長 武藤 淳



会場風景

日本医療マネジメント学会福島支部は、7月3日(土)、いわき^{めいせい}明星大学において第2回福島支部学術集会を開催しました。

今回は、福島労災病院の武藤 淳副院長が学術集会会長を務め、「みんなで考えよう医療安全」をテーマに、福島県内の各医療機関から27題の事例発表が行われました。

事例は、リスクマネジメントをはじめ、クリティカルパス、チーム医療、地域医療、DPC、感染対策、救急医療及び人材育成など多岐にわたり、役員を含め144名が参加しました。

(次頁へ)